

「この装置は どうして生まれた!」

X-GUARD

「X-GUARD (エックスガード)」 開発へのきっかけや背景について

本プロジェクトは、ガラス材輸入商社である高砂貿易株式会社（東京都千代田区）の常務取締役・五味原実氏の発案から始まった。高砂貿易は病院の新築、改装に際しハイブリッド室やレントゲン室に使用されるフランス製の鉛ガラスを納品していたが、他の用途に使えないかを模索しているところであった。高砂貿易は従前から、日本の各メガネレンズメーカーにメガネ用ガラス材を納品していた実績があり、古くからの取引先であるメガネレンズメーカーの弊社、昭和光学株式会社（大阪府東大阪市）に相談。かねてより親密にしていたこともあり話はほとんど拍子に進み、製品実現化に向けてのチャレンジがスタートした。

市場調査について

2016年、製品開発に当たりまずは市場調査を行った。あらゆる製品を購入し、どんなものが、どれくらいで、どのように市場に流れているのかを調査した。高砂貿易も昭和光学もメガネレンズの事は知っていても医療従事者向けの製品がどのようなものが全く知らなかった。市場では鉛アクリル製の製品がメインであることは直ぐにわかったが、鉛ガラス製はどれくらいの市場があるのか見当もつかなかった。わかったことはさまざまな形状のものが特に形が定まっていないこと、レンズによる防御がメインで製品作りがされていると感じたことだった。

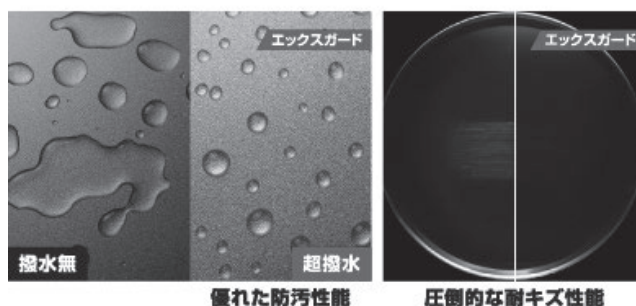
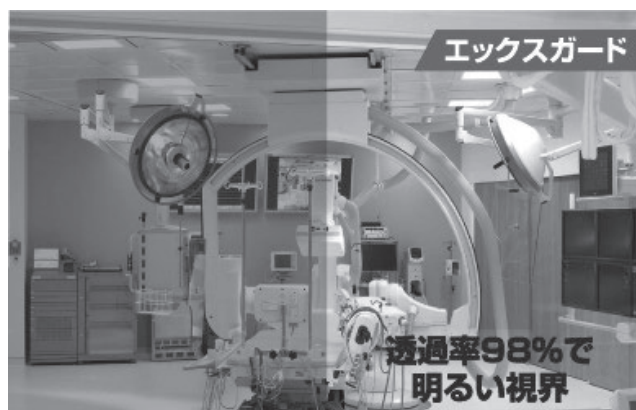


図1

⇒巻頭カラー参照